

「困っている」市民を支えるまちづくりについて

こんにちは。今回、私の市政に関する一般質問は、「困っている」市民を支えるまちづくりについてです。

なかなか収束しないコロナ災害の中で、今、公共サービスの中身が問われています。

(1)、公共施設の在り方について。

三鷹市は、老朽化する施設の維持・保全についての計画である新都市再生ビジョン（仮称）策定に向けた準備を進めています。SDGsを前提とした市政運営を展開するためには、公共施設の今後の在り方等についても、基本的なSDGsの誰一人取り残さないことを踏まえた検討が必要だと考えます。

ア、「多文化共生センター（仮称）」について。

第4次三鷹市基本計画（第2次改定）において、新たに多文化共生センター（仮称）について、三鷹駅前再開発事業に合わせて整備を検討するとしています。現在は、国際交流センター機能を担っている三鷹国際交流協会、通称MI SHOPは、文化交流から日常生活支援へ、困っている外国籍市民への日常生活支援を拡充してきた経緯があります。

質問1、MI SHOPが現在実施しているセンター機能はどのようなものでしょうか。

質問2、現在行われている外国籍市民等の日常生活支援の具体的な内容、相談件数や多い相談事例などをお伺いします。

質問3、みたか国際化円卓会議での資料では、この施設のイメージとして、異文化を理解し、多文化共生を考えることが大切とし、日常生活支援等には触れられていません。新たな施設の目的及び機能をどのように想定しているかを改めてお伺いします。

質問4、今後の公共施設全体の在り方の中で、この施設を駅前再開発の中に位置づけなければならない理由は何でしょうか。市長の見解をお伺いします。

イ、女性センター機能の充実・活性化について。

市は、男女平等行動計画2022の第2次改定に当たって、新たに事業概要ナンバー89、多文化共生センター（仮称）における女性センター機能に関する検討を追加しました。

質問5、ここで示された女性センター機能とは、具体的にどのようなことを指しているのでしょうか。

質問6、現在の男女平等施策の推進に当たって、不足しているものはどのようなものと捉えているのでしょうか。

質問 7、SDGs では、ジェンダー平等は全ての目標に先んじて実施されなければならないものと解されています。SDGs を掲げる市にとって、必要な機能をどのように捉えているのでしょうか。

質問 8、困っている市民、特に弱い立場に置かれている女性などへの支援をどのように進めていこうとしているのでしょうか。

質問 9、女性センター機能の拠点整備に当たって、専門性を有する職員の配置についての市長の見解をお伺いします。

質問 10、公的な施設の在り方として、駅前再開発の中で検討される多文化共生センター（仮称）に一体化することとした考え方について、市長の見解をお伺いします。

ウ、「北野情報コーナー（仮称）」について。

2020 年度予算において、市は北野の里（仮称）まちづくり整備計画策定に向けた取組を進めると同時に、北野情報コーナーを整備すると明示しました。

質問 11、北野情報コーナー設置の目的と機能はどのようなものなのでしょうか。

質問 12、事前に市民、議会への具体的な説明がなかったのですが、市民からの意見反映はどのように行ったのでしょうか。

質問 13、運営は誰がどのように行うのでしょうか。

質問 14、今後の維持コストは年間どの程度を見込んでいるのでしょうか。

質問 15、持続可能なまちづくりの中で、たとえ暫定的であっても、市の公的な施設設置について、十分な説明責任が果たされるべきです。市長の見解をお伺いします。

次、大きな(2)、連続して 17 回目となります東京外郭環状道路工事について質問いたします。

ア、調布市での陥没事故・空洞発見について。

本年 10 月 18 日 12 時 30 分頃、調布市東つつじヶ丘において、道路及び民間の住宅地下が陥没しました。実際には、朝から道路に亀裂があるのが確認されています。

質問 16、三鷹市に陥没事故の連絡があったのは何時何分頃でしょうか。

質問 17、三鷹市の職員が現場を確認したのはいつでしょうか。

質問 18、11 月 2 日には、陥没地点の北側に長さ 30 メートルにも及ぶ巨大な空洞が発見されました。三鷹市に連絡があったのは何日の何時何分頃でしょうか。

質問 19、陥没及び空洞発見に際し、周辺住民への周知、避難等は、いつどのように行われたと聞いているのでしょうか。

質問 20、陥没は 19 日未明までかかって応急復旧作業を行い、空洞は 11 月 24 日に充填が完了したと公表されています。これらの対応について、事業者から三鷹市への説明は、迅速かつ詳細なものであったのでしょうか。

質問 21、今後の原因究明のための調査や工事については、どのようなものと説明されているのでしょうか。

質問 22、陥没や空洞発生地点の地質・地盤と同様の地質・地盤があるかについて、三鷹市域の外環計画線上において調査をしているのでしょうか。

イ、住民への説明について。

11 月 6 日、7 日、3 回にわたり、被害地近隣住民への説明会が開催されました。入場できる住民が限定された説明会であり、事業者の説明責任を果たしていないと考えます。三鷹市域にあと数か月でシールドマシンが掘進する予定でした。三鷹市民への説明会も必要と考えます。10 月 21 日付国交省など、事業者らへの市長の要請でも丁寧な説明を求めています。

質問 23、もっと明確に具体的に説明会開催を求めるべきです。市長の見解をお伺いします。

質問 24、中央ジャンクション北側ランプシールドトンネル工事に係るシールドマシンの状況やその他のジャンクション工事の現状について、市民への説明が必要です。事業者が開催しないのであれば、市の責任において開催すべきです。市長の見解をお伺いします。

ウ、今後の対応について。

国、東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社は陥没事故を受け、まずは原因究明のための調査を実施するとしています。さきに触れたように、三鷹市は事業者 3 者に対し、10 月 21 日付で要請書を提出しました。その迅速な対応は評価をいたします。その上で、何よりも住民の安全を第一に考えるのであれば、二度と事故を起こさないことが確実に保証されなければ、シールドマシン工事を再開させてはならないと考えます。

質問 25、三鷹市は徹底的な原因究明とそのデータ公表を確実に実施するよう、改めて求めるべきではないでしょうか。

質問 26、三鷹市は事故を起こさない確証が得られるまで、工事の再開を認めてはならないと考えます。市長の見解をお伺いいたします。

さきの質問議員と重なるところもありますが、答弁の御配慮をお願いいたします。

以上で壇上での質問を終わります。自席での再質問を留保いたします。答弁のほどよろしくをお願いいたします。